

COG2025 応募内容確認書

ID	17-11-1
自治体名	神奈川県真鶴町
自治体提示地域課題	まちに住む！こどもが元気に育ち、若者が地域とつながる暮らし
チーム名	Code for Manazuru
アイデア名	オープンナレッジ農園
チーム属性	混成：市民と学生（ ）の混成チーム
チームメンバー数	10超（ ）
代表者	工藤 春香
メンバー（公開）	工藤 春香, 佐野 杏, 森 花菜, 坂本 光, 石塚 清香, 中瀬 幸子, 太田 直樹, 佐々田 美祝, 鈴木 桃, 鈴木 文乃, 竹内 淳, 萩原 早季奈, 小川 さくら

【確認事項】

- <応募のPDFファイル名と送付先>確認しました。
- <応募内容の公開>確認しました。
- <知的所有権・肖像権>確認しました。問題ありません。

COG2025 アイデア提案書

自治体名：神奈川県真鶴町

自治体提示の地域課題：まちに住む！こどもが元気に育ち、若者が地域とつながる暮らし



「軽トラックいっぱいのミカンが、2,000円」

ある大学生の想いから、真鶴の物語は始まった。

アイデア名：オープンナレッジ農園

チーム名：Code for Manazuru

1.アイデアの全体像

1-1.提案するアイデアのあらまし

起点は真鶴の若者の想い。オープンナレッジ農園！

軽トラックいっぱいのミカンが2,000円。そんな悲しい現実に曾祖父の代で市場出荷を停止した佐野農園。代々受け継いできた農園を残したい。真鶴生まれ・真鶴育ちの大学生の想いを起点に、若者が真鶴を知り、そこからワクワクするような共創が生まれるオープンナレッジ農園を皆で育てていく。

【願い】若い世代がワクワクするような共創が生まれる農園から、
真鶴の若者と地域がつながる暮らしを創る

- 「仕事の選択肢が少ない」…真鶴と日本の地方が抱える人口流出の大きな課題
- 解決の第一歩「地域の仕事を知る」
- 出荷停止した農園を残したい想い溢れる真鶴育ちの若者がいる
- 農園を、若い世代が真鶴を知り真鶴とつながる場として、若い世代がワクワクするような共創の場として再生する



ワクワクする共創の場として、「オープンナレッジ農園」を開園する

- 農作業だけでなく、農園の土中環境調査活動、青空教室(真鶴の産業や暮らしを知る)、蒸留ワークショップ、商品開発・マーケティング等、農園発の様々な企画を立ち上げ、そこから生まれる多様な知見をオープンナレッジとして公開・共有し、人が循環し、共創が生まれる農園を創っていく



真鶴の特産品であるみかんを育てる活動に留まらず、土や水の循環という目に見えない要素についても深く学ぶ活動をリアルな農園で展開することで、真鶴愛を育み、町内外の若い世代が真鶴町とつながる暮らしを醸成する。

1-2. 提案するアイデアの内容(5W1H)

What(何を):具体的なサービス・活動、新規性

若者が真鶴の「仕事や暮らし、自然」を「知る・体験する・学ぶ」ことができる場を開園し、そこからさらにワクワクするような共創が生まれる循環を創出していく。

* 多様なアクティビティ

【アクション】農作業の手伝い、農作業体験、リサーチ活動から生まれた農地改善

【リサーチ・学び】農地の土中データ調査→オープンデータ化、

青空教室(農家による真鶴農業の歴史と農作業の作法、現場の実際等)

【交流】農園BBQ、蒸留ワークショップ、参加型商品開発やマーケティング

【商品開発・マーケティング】農産物の出荷 & 商品開発

【発信】リサーチ活動のオープンデータ発信

若者による情報発信(真鶴の大学生が開発した総合情報サイトからの発信等)

* 学びから生まれるオープンナレッジ(活動で得た知見は共有財産、次の競争の種へ)

* 芋づる式の学び(土に関わる営みから農業や石材業を知り、魚付き林から土と魚の関係を知る)

私たちの学びの哲学：「オープンナレッジ」と「芋づる式の学び」。

活動で得た知見は、次の共創の種へ



ひとつの学びが、次の世界への扉を開く



Who(誰が) : 実施者・組織

佐野農園、Code for Manazuru、Code for Graound
+ 町民サポーター(農家等)、行政(健康こども課、地域活性化起業人等)

Who(誰に) : 対象者・受益者(主体、的関与も含む)

若者、真鶴や農業、自然に興味のある方、
オープンデータ・オープンナレッジを活用したい専門家・企業等

When(いつ) : 実施時期・頻度

通年を通した様々な企画の実施

→(農プロジェクト)農作業、土中調査、農地改善作業、青空教室、
(交流プロジェクト)ワークショップ、農園交流会、スタディツアーア

Where(どこで) : 場所・対象地域

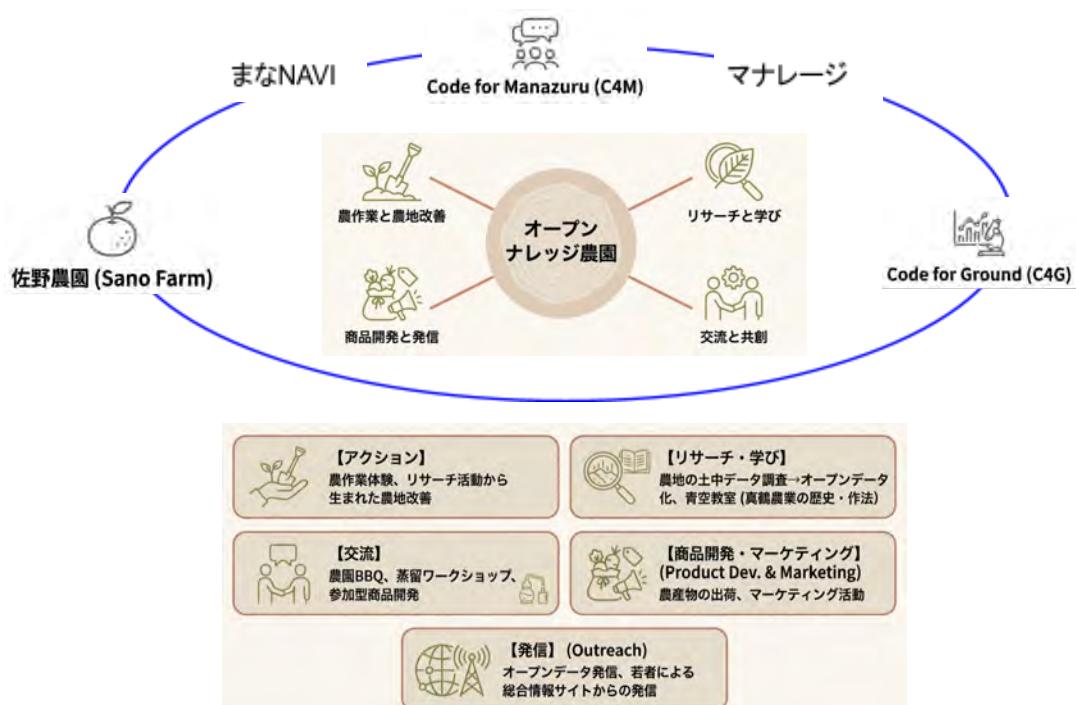
無農薬ほったらかし農園(佐野農園)

+ 協力パートナーの事業拠点(オープンデータ活用企業、開発商品のアンテナショップ等)

How(どのように) : 方法・アプローチ

佐野農園をフィールドとして、以下の団体が連携して活動する

- Code for Manazuru (C4M)
 - 全体統括、様々なプロジェクト・企画の実施による交流創出
 - 若者目線の情報発信
 - メンバーが運営する広報媒体「まなNAVI」における発信(<https://www.mana-navi.com/>)
 - COG2024提案事業である地域通貨アプリ「マナレージ」と連携した活動
 - スタディツアーアの実施
- Code for Ground
 - 探求学習や体験企画の実施
 - 「観察・測定→共有・対話→小さな実装」のサイクル実施
 - オープンデータ、オープンナレッジの生成・公開
 - スタディツアーアの実施サポート
- 真鶴町健康こども課 一伴走支援
 - くらしかる真鶴(学生の滞在拠点施設)の活用
 - 地域活性化起業人(各種専門家)との連携



2. アイデアの理由 (Why)

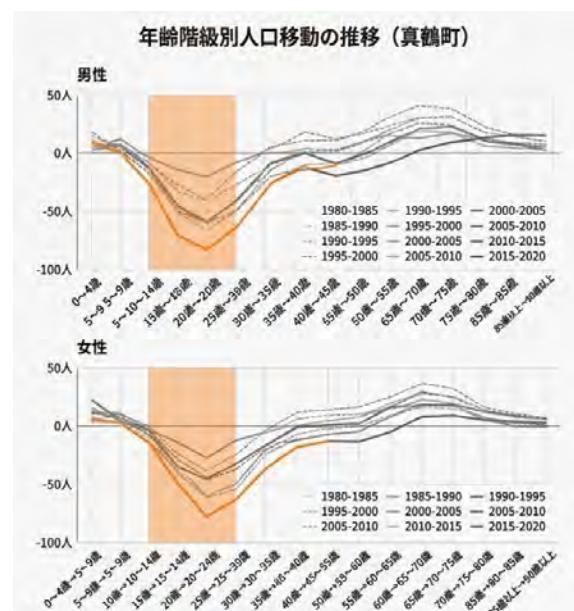
2-1. 理由のポイント

- 「農園を残したい」想いをもつ真鶴の若者が起点
- 若者が地元に残らない要因は仕事・選択肢の少なさ
- 一方で、地方で暮らすことへの憧れや社会貢献・自己表現の場を求める傾向もある

↓
「仕事がない」巨大な社会課題に対して、解決に向けた第一歩として「地元の仕事を知る・体験する」機会を提供する。自然・スローライフを志向し、自己表現の場を探している町外の若い世代にも訴求できるようなワクワクする農園(豊かな自然の中で最先端の共創)づくりを目指す。

2-2. 根拠と裏付け

- 就職期の人口流出—真鶴町と日本の地方が直面する課題ー
真鶴町の第3期総合戦略・人口ビジョンにおいても、1980年以降から、就職期に転出超過が続いている、構造的な問題・若い世代の流出要因になっている。
- 地元就職・地方暮らしを阻む壁と可能性
大学生Uターン・地元就職に関する調査では、地元就職を希望しない理由第2位として「志望する企業がない」、地元から転出した者で、希望する仕事・職業があれば地元で暮らしてよかったと思う割合で、男女共に6割を超えており、職業の選択の少なさが転出要因になっている一方で、希望する仕事があれば地元に残る可能性も示唆されている。
また、「地方での生活にあこがれがある」のに実際に暮らせない理由として、「働き先の有無」が第2位となっており、地方へのあこがれを実現できない要因として、「仕事」が日本の地方にとって課題として直面している。



2021年卒大学生Uターン・地元就職に関する調査

地元就職を希望する理由 (上位5位抜粋)

- 1位 (自分の意思から)両親や祖父母の近くで生活したいから
- 2位 実家から通えて経済的に楽だから
- 3位 地元 (Uターン先)での生活に慣れているから
- 4位 地元の風土が好きだから
- 5位 仕事とプライベートを両立させたいから

地元 (Uターン含む) 就職を希望しない理由 (上位5位抜粋)

- 1位 都会のほうが便利だから
- 2位 志望する企業がないから
- 3位 実家に住みたくない (離れない) から
- 4位 給料が安そうだから
- 5位 地域にとらわれず働きたいから

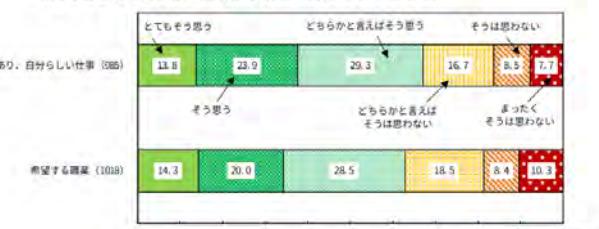
https://www.rilis.jp/industry/university/university-u-turn-and-local-employment-survey-report-2021.pdf



『東京圏の若者の地方に対する意識調査 2024』トラストバンク地域創生ラボ

<https://www.trustbank.co.jp/newsroom/newsrelease/press841/>

図表2-17：地元から転出した者で、希望する仕事・職業があれば地元で暮らしてもよかったと思う割合 (2022年、中国地域)



『2024年秋号 地域課題分析レポート～ポストコロナ禍の若者の地域選択と人口移動～』

令和6年12月 内閣府政策統括官（経済財政分析担当）

<https://www5.cao.go.jp/jitsuryoku/24-3/pdf/zenraku.pdf>

- 地方で暮らすことへのあこがれ
「スローライフ」が地方で暮らす要因として大きく、連動して「都会の喧験から離れたい」「心機一転できそうだから」「歴史や自然を身边に感じたいから」が上位4位をしており、今回のプロジェクトのフィールドである「農園」は、地方へのあこがれを抱く方々に訴求できるコンテンツとなりえる。

なぜ地方で暮らすこと気にあこがれていますか？

(複数回答可／3つまで)



対象：「地方暮らしにあこがれをもっている」と回答した人（n=441）

『「農園」の若者の地方に対する意識調査 2024』トースト・リク地域連携ラボ

<https://www.toastbank.co.jp/newsroom/newsrelease/press341/>

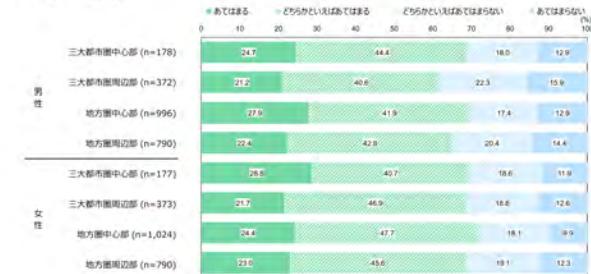
- 自己実現の場を求めている
社会課題を解決するための社会運動に参加した理由として「自分ができることをしたかったから」「自分の気持ちを表現したかったから」が1位2位と続き、自己実現ができる場として若い世代に今回のプロジェクト・農園を訴求することも考えられる。
また、三大首都圏中心部の女性が「社会貢献活動」への参加意向の割合が高い。



『2世代が考える社会を良くするための社会運動調査2022』(日本労働組合総連合会)
<https://www.jlc.rengo.or.jp/info/chousa/data/20220333.pdf>

「私は、社会に貢献する活動に参加したい」に対して、「あてはまる」と回答した人の割合は、男性では地方圏中心部、女性では三大都市圏中心部でが高い。

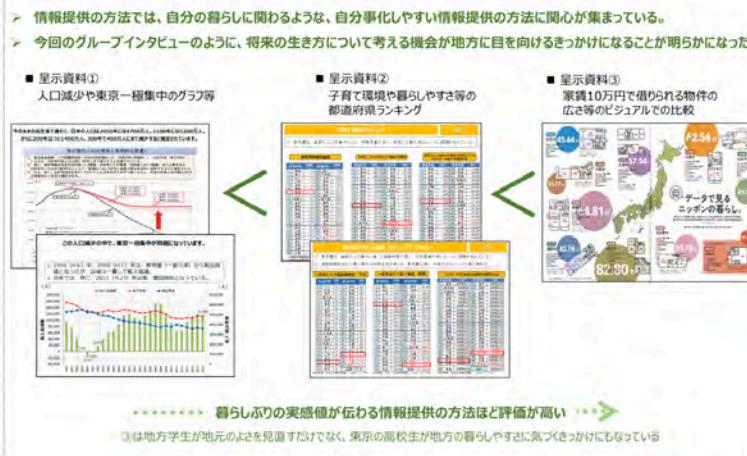
質問16：あなた自身と社会の関わりについて、教えてください。「私は、社会に貢献する活動に参加したい」（単一回答）



『18歳意識調査「第2回第一回結果(なし)地図版 特別版』(財团法人日本労働組合総連合会)
https://www.jlc.rengo.or.jp/pdf/content/0325/09/www_pc_20250828_04.pdf

- 若者に届く情報発信
地方創生ワカモノ調査では、「自分の暮らしに関わるような、自分事化しやすい情報提供に関心が集まっている」。
情報媒体と提供情報を工夫することで、若い世代に本プロジェクトを訴求する可能性は高まる。今回のプロジェクトの起点が真鶴の若者であること、また同じ真鶴の大学生が構築した情報サイトによる情報発信も連動させることから、「若者目線」の情報発信をプロジェクトの基盤としていく。

5. 広報・コミュニケーションに対する評価



3. 実現までの流れ(How)

3-1. 実現する主体

【誰が(組織・団体・個人)が実行するか】

- **Code for Manazuru(提案者)**
COG2024への提案応募のプロセスの中で、今回農園を残したい若者を含めた大学
生世代(大学生・大学院生)と大人(町のDXアドバイザー(Code for Japan)・企業社
長(Avinton Japan)・起業家(SHIN4NY Inc.)等)の女性メンバーが2024年に12月に
Code for Manazuruを結成。真鶴町でシビックテックの普及と、こども・若者を応援す
ることを目的に活動を始めた。佐野農園と共に、今回のプロジェクトの実現主体とな
る。
webサイト: <https://tested-porpoise-2e9.notion.site/c4manazuru>
(連携企業・団体)Code for Japan、Avinton Japan、SHIN4NY Inc.等々
- **佐野農園**
プロジェクトのフィールド提供者であり、オープンナレッジ農園として農園を再生して
いく主体である。
- **Code for Ground**
佐野農園の土中データを調査・採取し、農園の自然の状態をオープンデータ化し、
「オープンナレッジ農園」を具現化する中核パートナー。人と自然の関係を、足元の
「土の中」から考えてみようというプロジェクトを展開し、観察や測定を通して“土中
の変化”を可視化し、市民が地域の自然に関わるきっかけを生み出している。2025
年春にCode for Japan のブリゲードに登録され、もともと「土中環境オープンデータ
プロジェクト」として活動を続けてきた。

3-2. 必要な資源と調達方法

ヒト: 必要人材・スキルと確保方法

- **Code for Manazuru**
- **佐野農園**
- **Code for Ground**
- **連携企業**
- **真鶴町(行政)**
- **専門家**

モノ: 必要機材・設備・場所と調達方法

- **農園**
- **農園調査に係る機材・設備等**
- **農地改善に係る材料等**

カネ: 資金規模と調達方法(補助金・寄付・収益など)

- **農園管理に係る自己資金、寄付**
- **企業連携による技術的・人的・資金的支援**
- **スタディツアーや等による事業収入**

3-3. 実現までのプロセスと時間軸

【ステップ・スケジュール・マイルストーンの明示】

2025年

9月 フェリス女学院大学 授業にてCOG提案作成スタート

11月 フェリス女学院大学学生による真鶴フィールドワーク、真鶴町民との交流

12月 佐野農園 感謝祭

COG提案完成

2026年

1月～ 農園再生プロジェクトの組成、順次、アクション開始

7月 草刈り等の農作業

10月～12月 摘み取り作業

12月 一年の活動検証



アイデアから実行へ。実現までのロードマップ。

2025年9月：
フェリス女学院大学の
授業にてCOG提案
作成スタート

2025年12月：
佐野農園 感謝祭、
COG提案完成

【アクション】
2026年7月：
草刈り等の農作業

2026年12月：
一年の活動検証

2025年11月：
真鶴フィールドワーク、
町民との交流

2026年1月～：
農園再生プロジェクト
組成、順次アクション
開始

【アクション】
2026年10月～12月：
摘み取り作業